

あこがれのたより

12月



発行責任者
初村 一郎

【校長室より】

『高校を卒業して間もない、大学生になったばかりの女子生徒が書いた手記』

今回は、手記を紹介してみたいと思います。1年の締めくくりにふさわしい、ほっこり染みる内容です。ぜひ読んでみてください。

3年生はいよいよ正念場！ 年末年始、そして入試本番まで、心の栄養補給にどうぞ！

3月にね、大学の合格者が発表されるやろ。第一希望の大学やったけん、本当に嬉しかった。それから1ヵ月、めっちゃ遊んだ。それまでは、受験勉強があって遊べなかった。1ヵ月があっという間に過ぎた。卒業式もあったし、大学の入学手続きもあったし、一人暮らしを始めるための家探しもした。実家は同じ福岡やけど、ちょっと家からは通えん。一人暮らしもしたかったし、そういう大学を選んだ。でも、帰ろうと思えばすぐに帰れる距離。お父さんも「九州から出たらいけん」って言ったし。入学する前は本当にワクワクして、ずっと受験勉強のプレッシャーもあって、それから解き放たれて、志望校に合格できた。卒業式が終わってすぐ、初めて髪を染め、パーマをかけた。それまでは、校則があってそんなことできんかったしね。卒業式の次の日、美容院に行った。お母さんも今までは、髪のこと洋服のこともいろいろうさく言ったけど、もう何にも言わなかった。これからは、自分の好きな服を着ることが出来る。もうすべて自由って感じで、ウキウキしてた。何のサークルに入ろうか、何のアルバイトしようか、アルバイトしてどれくらい1ヵ月で稼げるんだろう。そんなこと考えて、もうワクワクした。毎日が楽しくて、一人暮らしはそれ以上に楽しそうで、早く一人暮らしを始めたいと心から思っていた。親から離れても、そんなに寂しくないだろうって、平気だろうって思ってた。私は長女だったから、親からもみんなからも、親に甘えていない、自立した子どもって思われていた。自分でもそう思ってた。でも、違ったんよ。

明日は私の引越しの日という夜。いつも通りお風呂に入り、テレビを見て、お母さんが晩ご飯作ってくれるの見た。普段はお父さんも仕事の帰りが遅いんやけど、この日はいつもより早く帰ってきてくれた。たぶん私が実家で最後の食事だと考えてくれたんやと思う。その日のメニューはハンバーグやった。ありふれたメニューだけど、お父さんも、弟も妹も、そして私も大好きなお母さんのハンバーグ。ハンバーグなんてファミレスでも、いつでも食べれるし、ソースだって特別なものではなく、市販のデミグラスソース使ってた。でも、私はお母さんのハンバーグが、なぜか大好きだった。「今日の夕食はハンバーグ」って言われたらすごく嬉しかった。小さい頃、お母さんが台所でお肉を上下にペタンペタンたってたの、ずっと見てた。今でもその嬉しさは私の中に残ってる。

「もう、今日は忙しかったけど、あんたが最後やけんね。ハンバーグ作った。」お母さんがいつもの調子で笑うんよ。妹はその時、高校2年になるちょっと前、いい年して小3の弟に「うちのハンバーグの方がでかいやろ。よかろう。」とか、ちょっかいだして。弟も負けじと皿を替えたりして。これが毎日の光景だった。私はいつも少し引いて様子を眺めていた。一番でっかいとか言っても、それは妹と弟がそう言うだけで、実際には、そう大差なかった。だってお母さんが同じように作っていたから。

その日もそんなやり取りを醒めて眺めて「ばかやない、この人たち」とか言ったんだけど、そしたら弟が「姉ちゃん、最後やろ」そう言って一番でっかいハンバーグ譲ってくれた。妹も笑ってた。やっと5人、食卓を囲み、みんな揃って、いただきますして食べ始めたんよ。私はやっと食べれると思いながらハンバーグを一口、口に入れた。そしたら、食べれんごとなったんよ。箸が止まってしまって、ずっと下向いて、止まってたんよ。そしたら、お母さんが、隣に座っていたお母さんが「なーん、泣きよるとね、あんた」って私の顔を覗きこんだ。私、泣きよった。涙も鼻水も次から次に出てきて、喉が絞まるような感じがして、あれだけ好きだったハンバーグが喉を通らなくて、箸が止まってしまったんよ。家族の前で泣くなんか、恥ずかしいやろ、妹も弟もおるし。最初のうちはどうやって泣き止もうか、どうやってばれないように泣こうかって考えよった。でも、もうお母さんに気づかれたらしょうがないっていうか、お母さんの「なーん、泣きよると」の一言で、もう涙が一気に溢れてきて、もう完全に箸を置いて、わんわん泣いた。そしたら、お父さんがティッシュを持ってきてくれて、そーっと差し出してくれたんよ。なんか、そしたら余計に涙が溢れて、拭いても拭いても意味ないくらいに溢れて、出続ける涙を拭き続けた。

そしたら、お母さんが「寂しくて、泣いてくれよとね。泣いてくれんって思っとった。なんか嬉しかね。ねえ、お父さん。」そう言いながらお母さんも泣きよんよ。お父さんが鼻をずりずりいわせて「そやな」って答えて。弟と妹は最初、何事が起きたんやろって、びっくりしてた。でも、空気を読んでか、読まずか「おいしか」って、わざと大きな声で言って、場を盛り上げようとしてくれた。しばらく泣いたら、落ち着いて「久しぶり、こんなん泣いた。すっきりした。お腹空いた。」ってまた食べ始めた。

まさか自分が泣くとは思わなかった。初めて、実は寂しかった自分に気が付いた。再び食べ始めたハンバーグ。おいしいって思ったら、また泣けてきたけど、もうついには泣き続けながら食べ続けた。ぐちゃぐちゃの泣き顔を妹と弟に見られるのは恥ずかしいけん、できるだけずっと下を向いていた。だけど、ちらっと顔を挙げると、弟、妹、お父さんを見ると、そして目を真赤にして笑っているお母さんの顔が見えて、なんか頭の中がいろんなことを思い出した。あの時何を食べたとか、どんな話をしたとか、どんな喧嘩をしたとか、叱られたとか、お母さんのこと、お父さんのこと、妹・弟のこと、明日から一人だって思ったら、また泣けてきた。お母さんのハンバーグすごく美味しいって鼻をずひずひいわせながら食べた。あれだけ泣かんかった私があのハンバーグを一口食べた瞬間に涙が出てきたんよ。すごく不思議やったけど、あの一口が、今までのいろんなことを思い出させてたんだろうと思う。「食」ってすごい力を持っていると思う。「食卓」ってすごいと思う。「家族」ってすごいと思う。

【衛生看護科】

施設実習（1年）

11月30日～12月8日の7日間、施設実習に行ってきました。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、前期の実習に行くことができず初めて利用者様と接する生徒たちは緊張の面持ちでした。学校での実習との違いに戸惑いながらも、利用者様が温かく受け入れてくださり、コミュニケーションや食事、排泄、入浴などの援助を行っていくうちに楽しく実習に臨むことができた様子でした。そして、学校だけでは学べないことや今後の生活に向けて課題が見つかった実習となりました。利用者様に「ありがとう」と言われたことで心が温まり頑張ろうと思ったこと、援助をすることは難しく怖いと思ったことを忘れずに、2年生から始まる病院実習に向けて努力していきたいと思えます。感染リスクがある中、実習を快く受け入れてくださった施設の皆様に感謝申し上げます。



【スポーツコース】 乗馬・ゴルフ実習

スポーツコース3年生の生徒14名は、9月～10月にかけて乗馬実習、11月～1月にかけてゴルフ実習を行います。毎年、乗馬実習は、五島自動車学校様、ゴルフ実習は五島カントリークラブ様のご厚意により実施させていただいております。乗馬実習では馬事管理部長の原様のご指導のもと、正しい乗馬の姿勢や方法、また馬のお世話等教えていただきました。ゴルフ実習では支配人の今村様のご指導のもと、ゴルフの基本をゼロから学び、現在打ちっぱなし練習場で猛特訓中です。今後は実際のコースに出てラウンド練習を行う予定です。これらの経験を、生涯にわたる豊かなスポーツライフ実現のためのきっかけの1つにすることができればと思っています。ご協力いただきました五島自動車学校様、五島カントリークラブ様にお礼を申し上げます。



【1年生】 芸術科発表会

12月18日（金）本校メモリアルホールにおいて、1年生の芸術科発表会を行いました。音楽選択者はクラスで合唱を披露しました。短い準備期間ではありましたが、自分たちで選曲を行い、話し合いを進めながら練習や演出に取り組んできました。当日は、各クラス一丸となって、練習以上のパフォーマンスを行い、会場を明るい雰囲気してくれました。特に今回は、各クラスの個性が光り、「笑いあり、感動あり」の素晴らしいステージとなりました。音楽を通して他者と交流する楽しさや難しさ、嬉しさを今後も忘れずに音楽と向き合ってもらいたいです。美術選択者は、学校の風景を切り絵で表現した作品を、メモリアルホール入口に展示しました。残念ながら完成に至らなかったものもありますが、一人一人がいいなと思った風景を、根気強く心をこめて表現しました。作品制作、あるいは鑑賞を通して、五島高校の魅力を改めて感じ、五島高校により愛着を持ってもらえればと思っています。

普段は交流のない音楽選択者と美術選択者ですが、今回の発表会で双方共に芸術的感性を磨き、今後の人生をより豊かなものにしてほしいと願っています。



第37回九州高等学校選抜剣道大会出場に向けて

剣道部 男子主将 藤原 幸海



先日、行われた長崎県高等学校新人体育大会剣道競技において男子団体の部で第三位に入賞し、来年の2月13、14日に沖縄県那覇市で行われる第37回九州高等学校選抜剣道大会の出場権を獲得することができました。私たち剣道部は、この大会に向けて部員全員が一丸となり、日頃の練習の成果を十分に発揮して、一戦一戦を全力で戦ってきたいと思います。そして予選リーグを突破して上位進出ができるように精一杯、頑張りますので、応援のほど、よろしくお願い致します。